

若事研本報

No.218
編集・発行
岩手県公立小中学校
事務職員研究協議会
総務部
令和5年11月30日

第51回岩手県公立小中学校事務研究大会 特集

令和5年10月13日(金)、いわて県民情報交流センターを会場に、参加者292名が一堂に会して、研究大会が開催されました。

今号は、参加者からお寄せいただいた感想を紹介します。

大会テーマ 『創造しよう！ 学校事務の将来像を ～笑顔が広がる いい学校をめざして～』

< 全体研究会 >

今年度、県内の小中学校で初めて主幹発令された5名の方々と事務長会会長から、所属する市町における共同学校事務室の設置にむけた取組、各自がこれまで積み重ねてきた経験から考えていること、事務長、主幹を含めた学校事務職員の役割や今後の展望についてご提案をいただきました。

助言者である盛岡大学文学部児童教育学科教授 福島 正行 様からは「共同実施や共同学校事務室などを軸にして、地域レベルで大きな視野を持って仕事をされている事務長の姿、あるいは校長に信頼され、学校事務職員として一目置かれている様子が伺われた。レベルの高い事務職員に成長していくためには、事務職員の育成指標が必要である。育成指標をもとに校長や先生たちへ「事務に従事する」時代の事務職員ではなく「事務をつかさどる」時代の事務職員はこうなのだ、ということを示して先生たちにそれを理解してもらい、新しい学校を作っていかなければならない。そういった意識を共有、あるいは意識を持たせていくことも大事である。そのために最優先すべきは学校事務職員としてどうあるべきか、その基盤を共有しておくことが大切である。」とのご助言をいただきました。

花巻支部 花巻市立石鳥谷小学校 柴内 真由美さん

久しぶりに参集開催となった大会でした。私が所属する共同学校事務室の室員も多数参加しましたが、今回が初めてという若手もあり、大会の雰囲気を存分に味わって欲しいと思っていました。

主幹兼事務長が発令されたことは、平成28年に初めて事務長が発令されたのと同じくらい、もしかすればそれ以上に歴史的なことだと思っています。ですから、今回の全体研究会ではその歴史の1ページを飾る方達と福島教授がどのような発言をされるのだろうか、と興味津々で臨みました。

主幹発令された皆様は、それぞれの共同学校事務室あるいは共同実施組織の長として、重要な役割を果たされています。組織のマネジメントや人材育成など、そのご苦労は手に取るように分かりましたし、加配申請の時期とも重なり、切実な思いが伝わってきました。事務職員の資質向上に関する育成指標を考えるという全体研のねらいのもと、主催者が想定したディスカッションになったのかどうかは分かりませんが、下村会長がおっしゃった「在職している間は事務職員として学び続けるべき」という言葉に大賛成です。自分自身、このあとの何年間かの現職のうちに果たすべき役割は何なのかをあらためて考える機会となりました。

久々に再会できた方々も多く、これぞ県大会と思うことができました。きっと若手の皆さんも、大会を堪能したことかと思えます。ありがとうございました。

< 分科会発表 >

○ 一関支部

「いわいのランドデザイン～みんながやってる実効策～」

○ 釜石支部

『『できる！財務マネジメント』～4つの視点から変える学校財務～』

○ 九戸支部

「地区事務研における人材育成の取組～未来へつながる、高めあう～」



福島県 福島市立清明小学校 青木 隆 さん

はじめに、第51回岩手県公立小中学校事務研究大会の運営員や発表者の皆様、貴重な研修の機会をありがとうございました。

昨年度開催された東北大会福島大会を機に、他県の動向を実際に見て学ぶことの重要性を再認識したことが今回の参加につながりました。コロナ禍以降初の県外研修だったこともあり、昼は冷麺、帰る前に北上川沿いをぶらり、お土産は「福田パン」という研修と小旅行を兼ね備え、学校事務職員仕込みのマルチタスクを十分に発揮する機会となりました。

さて、本題に移りまして…今回の研究大会では、新たな気づきと共感を得ることができました。「主幹（兼事務長）」という新たな職はもちろん、岩手県は共同実施がより実務に絡んでいるなど実感しました。また、全体研究会のディスカッションを受けて、現状、課題はあるものの、今後の学校事務職員の可能性をより具体的に捉えている点が羨ましく感じました。

また、一関支部の分科会では「学びの形を形づくる」ことが事務研に求められるという点に共感しました。グループワークの「事務研は必要か？」という問いに「事務研は、ちょっと背伸びできる場所」と回答させていただきました。背伸びし続けることは大変。ただ、背伸びをして目線を変えると新たな気づき生まれ、課題を乗り越え、また背伸びをすると更なる気づき！そのような経験ができる場所が事務研かなと個人的に感じていたので、「学びの形を形づくる」という発表にシンパシーを感じて何度も頷いていました。

「学びの形」は地区や県によって変化しますが、絶えず「形づくる」努力は続けていこうと再確認する一日となりました。



和賀支部 北上市立和賀西小学校 荻野 風翔さん

釜石支部では、「財務マネジメント」、「学校財務の情報共有」、「会計システムの統一」、「未納者対応」の4つの視点での取組が発表されました。

情報共有班の保護者向け「事務だより」の発行や、児童向け「学校お金クイズ」の取組は、教職員向けの情報発信しかしていなかった私にとって新鮮な内容でした。

また、「生徒対象の修繕要望調査」を行っているという参会者の実践もとても興味深かったです。児童生徒や保護者を巻き込んだ取組をすることで、学校に関わるすべての人が学校財務について考えるきっかけになり、より良い学校づくりにつながるのだと思いました。

グループ討議では各学校の財務についての取組や課題について交流しました。学校の状況を交流しあうことで自分の知識を蓄え、新たな課題に気づくことができ、充実した時間になりました。今後も研修や研究活動に取り組み、学び続けていきたいと思いました。

二戸支部 二戸市立中央小学校 佐々木 美凧さん

数年ぶりの参集開催で、学校事務職員が集い、日常業務を研究し、意見を出し合うことの意義を強く感じた大会でした。

全体研究会では、令和5年4月に「主幹（兼事務長）」の発令がされた方々からお話を伺いました。主事の私にとって、「主幹」「事務長」は、まだまだ先のことと思う一方で、将来自分は、最終キャリアをどこに持っていきたいか、そのために、今何を習得し、どう行動していくべきなのかを考えさせられた時間になりました。

分科会は、釜石支部に参加しました。共同実施ごとに4つの財務マネジメントの取組が発表されました。

まず、研究活動を共同実施単位で行っていることが、普段の業務にも直結し、共同実施内で統一化を図ることは効果的と感じました。

実践取組では、特に、学校財務について児童生徒・保護者への情報発信した事例は興味深いものでした。例えば、教職員へ節電を呼びかけるより、児童生徒へ「本校の電気代はいくらか？」「昨年度と比較するとどう？」など、児童生徒が興味を持つような表現で伝える方が、自発的な節電行動につながるだろうと想像できました。

今回、他地区の事務職員の業務に対する姿勢に刺激を受けました。知り得た取組から自分にもできることを取り入れ、業務を向上させていきたい、と思った研究大会になりました。

花巻支部 花巻市立宮野目小学校 工藤 希美さん

九戸支部では地区事務研における人材育成をテーマに研究発表が行われました。新規採用者やジョブローテーションによる転入者が増えているなかで、実務経験がないと不安に感じる人が多い事務についてのマニュアルや用語集を作成する取組は若手にとって大変心強いと思います。

グループ討議での「地区事務研ができること」から、研究と考えると難しく感じるが、どのグループからも若手職員は不安や悩みを情報交換できる、ベテラン職員は若手が抱えている悩みを把握することができる貴重な場であると発表がありました。先輩方の知識や経験を提供いただくことで私自身も勉強になることが多くあります。

今回が初の研究大会への参加でしたが、日頃話す機会のない他地区の方々と交流することができ、まさに事務研ができることを実感した研究大会となりました。

下閉伊支部 宮古市立崎山中学校 畑村 汰槇さん

今回初めて参集開催の研究大会に参加しました。

全体研究会や分科会を通して、普段関わりの少ない他支部の情報や意見、取組を聞くことができました。

分科会は、九戸支部に参加しました。業務支援マニュアル、文書処理システム作成など事務職員の業務負担軽減につながる取組に関心を持ちました。実際のシステムを操作しながら、実用性を体験できる良い発表でした。

後半のグループワークでは事務職員としての期待や課題、事務研活動を通しての人材育成というテーマで様々な意見交流ができました。また、他県からの参加者もあり岩手県との違いも知ることができました。

他支部、他県の事務職員の方々と意見交流ができ、日々の業務に活かせる発表をきくことができ、充実した研究大会でした。

〈総合司会者 北上市立東陵中学校 河村 香織さん〉

「今、自分が事務研に何かできないか」と考え、総合司会を志望しました。

当日まで練習を重ねたもの思うようにはできませんでしたが、初めての経験をさせていただき感謝申し上げます。

また、大会運営に携わる皆様を目の当たりにし、深い敬意を表します。ありがとうございました。



いわて学びの希望基金

本協議会では、「いわて学びの希望基金」へ協力しております。この基金は、東日本大震災によって親を失った子ども達が学校を卒業し、社会人として独り立ちするまでの支援を行うための基金です。

今大会でも、開会式会場入り口に募金箱を置き、参加者の皆様からご協力をいただきました。募金額は5,240円となり、その全額を岩手県復興防災部復興推進課へお届けしたことをご報告いたします。

ご協力ありがとうございました。



< 編集後記 >

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

本号発行にあたり、感想をお寄せいただいた皆様へ心より感謝申し上げます。

コロナ禍あけの久しぶりの参集型岩手大会、懐かしい方、お世話になった方とあいさつを交わしている光景があちこちで見られました。やはり、集まってひとつの目的に向かうっていいな、としみじみ感じた一日でした。また明日から頑張りよう！というエネルギーになったのではないのでしょうか。

年度末も近づいて参りました、皆様、健康第一にお過ごしください。